



## この世界が創られる前に天で合意された贖いの計画

われわれをあがなう計画は、あとで考え出されたもの、すなわちアダムの墮落後に定められた計画ではなかった。それは、「長き世々にわたって、かくされていた奥義※1」のあらわれであった(ローマ 16:25)。それは永遠の昔から神の統治の根本となってきた原則のあらわれであった。初めから、神とキリストは、サタンへの背信と、この反逆者の欺瞞的な力によって人類が墮落することを知っておられた。神は罪が存在するように定められたのではなく、その存在を予見し、その恐るべき危機に応ずる備えをされたのであった。世に対する神の愛はまことに大きかったので、神は、「み子を信じるものがひとりも滅びないで、永遠の命を得る」ために、そのひとり子を与えることを約束された(ヨハネ 3:16)。 ※1:おくぎ(聖書)、おうぎ(国語)

(各時代の希望 第1章「神われらと共にいます」希望への光 P.676)

ヨハネによる福音書 3:16

神は、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。ひとり子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。

聖書における「神の愛」と「神の正義」は、神の本質を理解する上で重要なテーマです。

☛聖書には、「神の愛」(アガペー)は、無条件で人間を救う神の無限の愛として記されています。

ヨハネ3:16には「神は、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。ひとり子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」と、神の愛の極みが記されています。

☛申命記32:4では、「主は岩、その御業は完全で／その道はことごとく正しい。真実の神で偽りなく／正しくてまっすぐな方」と記されており、神はすべてにおいて完全に義なるお方であり、公正であることが強調されています。

詩編7:12では「正しく裁く神／日ごとに憤りを表す神」、ミカ書6:8には「人よ、何が善であり／主が何を前にお求めておられるかは／お前に告げられている。正義を行い、慈しみを愛し／へりくだって神と共に歩むこと、これである」、またローマ6:23では、「罪が支払う報酬は死です」と、世界秩序を保つ神の完全なる正義は、人間の罪に対する裁きや報いを通じて示されています。

☛神の愛と正義は、神の愛の究極のあらわれである十字架の贖いと復活を通じて、罪を裁きつつも、罪人に対して愛と赦しを提供します(ローマ3:26=このように神は忍耐してこられたが、今この時に義を示されたのは、御自分が正しい方であることを明らかにし、イエスを信じる者を義となさるためです)。

## 聖書にある自然【琥珀】



†琥珀

木の樹脂(ヤニ)が地中に埋没し、長い年月により固化した宝石。

半化石樹脂や半化石の琥珀は、コパル(Copal)と言う。色は、黄色を帯びたあめ色のものが多い。

鉱物ではないが、硬度は鉱物に匹敵する。

ネックレス、ペンダントなどの装身具に用いられる。



エゼキエル書 8:2 わたしが見ていると、人の有様のような姿があるではないか。その腰のように見るところから下は火であり、腰から上は琥珀金の輝きのように光輝に満ちた有様をしていた。

●SYUN-KA KIKOU 旬花紀行は、三田キリスト教会のホームページでも公開されています。

●発行責任者: 三田キリスト教会所属 谷口 一(兵庫県花緑いっぱい運動推進員、防災士)

